

2. 分離プルトニウムの使用状況等(平成24年1月～12月)

()内は平成23年1月～12月の報告値を示す。

(1) 酸化プルトニウムの回収量 《単位: kgPu》

回 収 量 (注5)	(独)日本原子力研究開発機構 再処理施設	日本原燃株式会社 再処理施設	合計
	0	0	0
	(0)	(0)	(0)

(2) 燃料加工工程での使用量 《単位: kgPu》

使 用 量 (注6)	もんじゅ・常陽等
	0
	(0)

(3) 原子炉施設装荷量 《単位: kgPu》

装 荷 量 (注7)	原子炉施設
	0
	(640)

(注1) 硝酸プルトニウムから酸化プルトニウムへの転換((注5)参照。)のほかに、分析試料の採取、査察等のために行われる区域間の酸化プルトニウムの移動により前年末の数値から変化する場合がある。

(注2) 新燃料の加工等のための酸化プルトニウムの原料貯蔵区域からの払出し((注6)参照。)のほかに、分析試料の採取、査察、再利用等のために行われる区域間の酸化プルトニウムの移動により前年末の数値から変化する場合がある。

(注3) 「研究開発施設」とは臨界実験装置等を指す。

(注4) 海外に保管中の分離プルトニウム量のうち再処理施設内に保管されているプルトニウム量については、回収等に加え、核的損耗(参考2(注3注2)参照。)を考慮している。

(注5) 「回収量」とは、再処理施設において、硝酸プルトニウムから酸化プルトニウム(MOX粉)に転換された量と定義している。

(注6) 「使用量」とは、燃料加工施設において、新燃料の加工等のため原料貯蔵区域から加工工程区域へ移動した酸化プルトニウムの正味の払出し量と定義している。

(注7) 「装荷量」とは、原子炉施設において保管していた新燃料のうち、炉内に装荷された量と定義している。

(注8) 数値は、四捨五入の関係により、合計が合わない場合がある。

原子炉施設等における保管プルトニウム・装荷プルトニウムの内訳

原子炉名等		保管プルトニウム(注1)		装荷プルトニウム(注2)		(参考)炉内挿入済みの分離プルトニウムー炉外取出済みの照射済みプルトニウム(注3)	
		(kgPu)	うち、核分裂性プルトニウム量(kgPuf)	(kgPu)	うち、核分裂性プルトニウム量(kgPuf)	(kgPu)	うち、核分裂性プルトニウム量(kgPuf)
日本原子力研究開発機構	常陽	134	98	—	—	261	184
	もんじゅ	31	21	—	—	1,533	1,069
東京電力(株)	福島第一原子力発電所 3 号機	—	—	—	—	210	143
	柏崎刈羽原子力発電所 3 号機	205	138	—	—	—	—
中部電力(株) 浜岡原子力発電所 4 号炉		213	145	—	—	—	—
関西電力(株)	高浜発電所 3 号炉	—	—	—	—	368	221
	高浜発電所 4 号炉	184	110	—	—	—	—
四国電力(株) 伊方発電所 3 号機		198	136	—	—	633	436
九州電力(株) 玄海原子力発電所 3 号機		160	103	—	—	1,317	880
研究開発施設	日本原子力研究開発機構 東海研究開発センター原子力科学研究所 高速炉臨界実験装置	331	293				
	日本原子力研究開発機構 大洗研究開発センター 重水臨界実験装置	87	72				
	日本原子力研究開発機構 東海研究開発センター原子力科学研究所 定常臨界実験装置及び過渡臨界実験装置	15	11				
	その他の研究開発施設	11	9				

(注1)平成24年末の量。

(注2)平成24年1月～12月に新たに装荷された量。

(注3)MOX燃料について、平成24年末までに炉内に挿入した分離プルトニウムの総量から炉外へ取出した照射済みプルトニウムの総量を差し引いたもの。平成24年末時点で、炉内に挿入中の MOX 燃料の新燃料時点でのプルトニウム重量に相当。定期検査のため、炉外に一時移動し保管されている場合もある。

参考データ(平成24年末) 原子炉施設等に貯蔵されている使用済燃料等に含まれるプルトニウム 133,352kgPu kgPu
 再処理施設に貯蔵されている使用済燃料に含まれるプルトニウム 26,464kgPu
 放射性廃棄物に微量含まれるプルトニウム等、当面回収できないと認められているプルトニウム 147kgPu